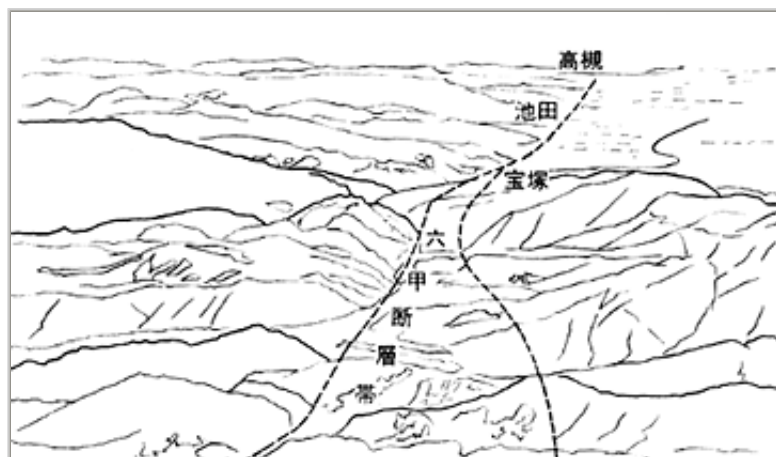




写真（上）高度900キロメートルから見た神戸付近。六甲山の北西側の黒い影の部分が六甲断層の破碎帯がつくった低地部、昭和47年（1972年）地球資源探査衛星ランドサットが撮影。

写真（下）白水峡の上空（高さ1300メートル）から見とおした六甲断層帯の延長で、宝塚、池田を通り高槻方面につづくようすがよくわかる（有馬—高槻構造線、昭53）。

